

ヒロバフウリンホオズキ

ナス科，一年生



関東以西を中心に発生しているが、2018年には東北でも発生が確認されている(本県では未確認)。ホソバフウリンホオズキが混生することも多い。イヌホオズキ類と同様に汚粒の原因となる。

発生期間	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
			※本県の大豆ほ場での発生は確認されていない									



形態的特徴	分枝が多く発生し、横方向へ広がる。葉は互生し、第1葉は卵型の全縁だが、以降次第に縁が波打ち、鋭い不揃いの鋸歯となる(ホソバフウリンホオズキは縁が粗い鋸歯の披針形)。葉や茎はほぼ無毛。花は五角形・淡黄色で、萼は球状の液果を包んで袋状となる。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・出芽適温が高く、出芽期間が長い。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤:フルミオWDG等の効果が高い。 ・大豆バサグラン液剤(全面)、アタックショット乳剤では、アタックショット乳剤の方が効果が高い。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・侵入初期に徹底的に防除する。